



下町所有「虎」
ギヤマンの両眼を爛々と光らせ、メッキされた真鍮の牙と爪をもった二匹の虎が四肢をふんばっています。江戸の天才浮世絵師・葛飾北斎が下図を描いたといわれる作品で、飾り幕の片隅には「東陽画狂人北斎筆」と落款が縫われています。



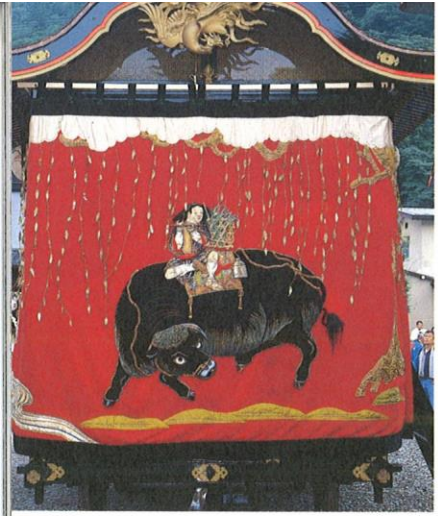
仲町所有「桜に駒」
前脚をあげていなく黒駒、600枚以上の桜の花吹雪。この優美な飾り幕「桜に駒」は昭和10年9月の荒天の際、仲町大神宮公園のがけが崩れ、保管していた倉庫が倒壊して土砂に埋まってしまいました。昭和58年に復元されています。

屋台飾幕

甦る豪華屋台競演

八朔祭では、かつては各町が競って豪華な幕を飾った屋台を練り出しました。屋台の舞台では、芸者衆や若者がお囃子に合わせて、さまざまな出し物を演じて豊作を祈念したといわれます。これらの屋台は江戸時代後期に造られたもので、これまでに「下町」「新町」「早馬町」の屋台が復元修理されており、ゆくゆくは「仲町」の屋台も合わせて4台すべてが揃った姿を見られることになりそうです。

新町所有「鹿島踊」
鹿島明神の御託宣をふれ歩く3人の古老が、天に向けて太鼓を打ち鳴らし、扇子をかざし、月うさぎの万燈を揚げて踊りうかれる愉快で賑々しい情景です。昭和62年に修復され、平成10年には見事に復元された新町屋台を飾りました。



早馬町所有「牧童牛の背に笛を吹く」
赤々と燃える夕映えのなかを今しがた草刈りを終えた牧童が黒牛の背に乗って、横笛を吹きながら家路に向かう情景を描いた印象的な絵柄です。中国宋代に作られた禪仏教の「十牛図」の図柄からとられたものと思われます。

